

ヨコレイ NOTE...VOL.5

第63期報告書 (平成21年10月1日～平成22年9月30日)

ごあいさつ・社長インタビュー	P1
営業の概況	P3
事業別の概況	P4

特集

今後の低温物流ニーズに対応する 「ワンノイ物流センター」を新設	P5
------------------------------------	----

安定収益の確保を目指し、 多彩な物流サービスを展開する 国内冷蔵倉庫事業	P6
--	----

連結財務諸表（要約）	P7
------------	----

株式の状況	P8
-------	----

[ヨコレイくんが行く! 『頑張るヨコレイVOL.4』]

「mobile YOKOREI」の 旅へ出発だ!	P9
-----------------------------	----

会社概要・役員及び執行役員・ネットワーク	P10
----------------------	-----



証券コード：2874

「人」に「もの」に 「地球」に“優しい” 食品流通のエキスパート

冷蔵倉庫事業

食材を中心に、お客さまからお預かりした貨物を最適な条件下で保管し、先進の物流・情報システムにより、ジャスト・イン・タイム物流の一翼を担っています。

食品販売事業

国内外の様々な食材を手掛け、輸出入を含む仕入から販売までを一貫して行うことにより、信頼性の高い食の供給に貢献しています。

代表取締役社長
吉川俊雄



ごあいさつ

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第63期（平成21年10月1日から平成22年9月30日まで）の経営環境は、消費マインドの低迷が続く厳しい状況で推移いたしました。こうした環境の下で、当社は、創業以来のモットーであります「本業に徹する」ことを基本に掲げ、第三次中期経営計画の重点施策を着実に実施してまいりました。その結果、冷蔵倉庫事業は減収減益、食品販売事業につきましては増収増益となり、当連結会計年度は増収増益となりました。

社長インタビュー

Q 第63期の業績とそれに対する評価についてお聞かせください。

A 本業に徹し、利益率を重視した経営施策を着実に推し進め、厳しい経営環境の中でも増収増益を果たすことができました。

冷蔵倉庫事業につきましては、利益率の向上を目指す観点から、採算を図ることが非常にむずかしい状況になってきた川下の物流から、川上の物流へターゲットをシフトさせてきました。その一方で、エリア密着型の集荷活動と作業効率の改善によるコスト削減策を講じましたが営業利益は減益となりました。総じていえば、冷蔵倉庫事業については減収減益となったものの、厳しい経営環境の中で第64期以降につながる業績を確保できたのではないかと評価しています。

食品販売事業につきましては、原料サプライヤーとしての機能を一層強化すべく事業展開を図ってきました。このため、子会社のグループ化や組織改革を断行し、主

要な水産品や畜産品などの輸出入に特化した取り組みを推進した結果、増収増益となりました。

グループ経営という観点から、うなぎの専門商社（株）セイワフード（※）とサケ・マス、カニの輸入に強い（株）アライアンスシーフーズの2社をグループ化することで、取扱い商品のラインアップの強化につとめました。これにより、食品販売事業の業容拡大につながると考えています。また、連結会計という観点から、コストの削減や管理の緻密性、迅速性を図るため、ITによるシステムの一体化を推進し、ほぼ完成しつつあります。

したがいまして、第63期の業績につきましては、厳しい環境の中でも一定の成果を残すことができたかと評価しています。

Q 第63期の取り組みと成果についてお聞かせください。

A 積極投資によりお客さまの満足度の向上を図るとともに、販売体制の強化を目指したグループの一体化に取り組みました。

冷蔵倉庫事業では、積極投資による「ヨコレイ品質」

の向上に取り組みました。近年、食に対する安心や安全に対する関心はますます高まってきており、古いタイプの冷蔵倉庫はお客さまから敬遠される傾向にあります。旧来の冷蔵倉庫は運送も含め、現在の物流ニーズに合わなくなってきているのが実情です。このため、当社では設備の高度化や老朽化対策として冷蔵倉庫のスクラップ&ビルドに取り組んできました。幸いにも、冷蔵倉庫建設に最適な場所を確保できたことから、第63期において大阪で「北港物流センター」、鹿児島で「新鹿児島物流センター」の建設に着手し、平成23年7月～8月にかけての稼働を目指すことになりました。また、海外では、当社の連結子会社であるタイヨコレイ（株）が、今後の低温物流ニーズに対応するため、タイのアユタヤ県ワンノイ郡で「ワンノイ物流センター」の建設に着手し、平成23年9月の竣工を予定しています。

食品販売事業では、都内の事業所を1ヵ所に集約し、お客さまの利便性向上を図るとともに、情報の一元管理を可能にし販売体制を強化するため、ヨコレイ新富ビルを取得いたしました。また、第63期から本格稼働した（株）アライアンスシーフーズを含め、グループ会社2社との人事交流も開始し、ヨコレイグループの一体化に着手いたしました。

Q 第三次中期経営計画の最終年度にあたる第64期の取り組みについてお聞かせください。

A 単なる売上の拡大を追求するのではなく、利益率の向上を目指したグループ経営を推進いたします。

世界的規模で食糧事情が大きく変わりつつある今日、どこか1ヵ所だけに目を奪われた感覚で事業を進めていけば、早晚、事業が立ちゆかなくなるリスクを負うことになるのは明らかです。当社としては、グループ経営強化という視点から、日本市場だけではなく世界市場を視

野に入れた事業活動にもっと力を入れて取り組んでいかなければならないと考えています。

冷蔵倉庫事業については、国内で「北港物流センター」と「新鹿児島物流センター」が、海外では「ワンノイ物流センター」が平成23年の7月から9月にかけて竣工し、稼働を開始します。これら新設の物流センターが順調に滑り出せるよう、営業力の強化をはじめ、全力で取り組んでまいります。

食品販売事業については、グループ会社との連携を強化し、商品調達力と利益率の更なる向上に取り組んでまいります。中でも、海外ネットワークを活用した販路の拡大に注力してまいります。食品販売事業だけではなく、ヨコレイグループに共通して言えることですが、目指しているのは、単に売上の拡大を追求するのではなく、よしんば売上が減少しても利益率は上がっている、このスタンスをきちんと継続していくことが「本業に徹する」ヨコレイグループにとって最も大切であると考えています。

Q 株主の皆さまへのメッセージを
お願いいたします。

A 全社員一丸となって「ヨコレイ品質」の維持・向上につとめ、すべてのステークホルダーさまのご信頼に応える企業を目指します。

今年6月に連結子会社の（株）セイワフードにおきまして、うなぎの不適切な取引が発覚し、すべてのステークホルダーさまに大変なご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。当社が標榜する「ヨコレイ品質」は、当社が決めるものではありません。お客さまが求めるもの、満足するものを自信を持って提供することが「ヨコレイ品質」の本質だと考えています。そうした意味で言えば、「ヨコレイ品質」を支える

ものは社員の「質」であり、社員が中心になって企業価値を高めていかなければなりません。こうしたヨコレイの精神を、当社はもちろん、グループ会社の全社員に再教育し、信頼の回復につとめることを第64期の大きな目標に設定し、事業を進めてまいります。また、（株）セイワフードにつきましては、食品販売事業の事業所が集結するヨコレイ新富ビルに移転すると同時に、社名変更をいたしましたことをご報告申し上げます。

また、グループ化によるグローバル展開を目指す当社は、これまでの日本国内でのIR活動に加え、海外でのIR活動を強化し、更なる企業価値の向上を目指してまいります。

最後になりましたが、当社は株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題として捉え、配当性向40%をお約束しており、ぜひともこれを継続し、安定的な利益配分につとめてまいりたいと考えています。こうした基本方針に基づき、期末配当金については1株につき10円（年間20円）とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも、当社の経営方針と経営施策につきましてご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※（株）セイワフードは、平成22年12月1日より、（株）クローバートレーディングに社名変更いたしました。



営業の概況

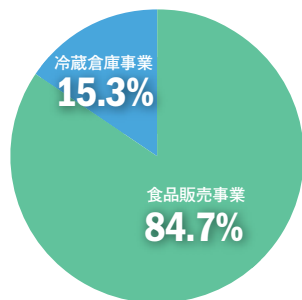
当期の概況

当社グループは、平成20年11月に発表いたしました第三次中期経営計画（3ヵ年）の事業方針に基づき、冷蔵倉庫及び食品販売の両事業ともに更なるサービスの高度化や新規需要の開拓に積極的に取り組んで業績の向上につとめてまいりました。

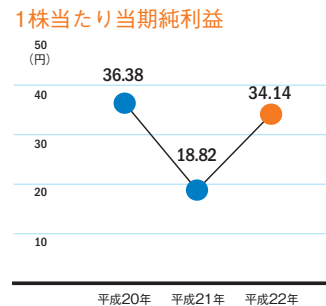
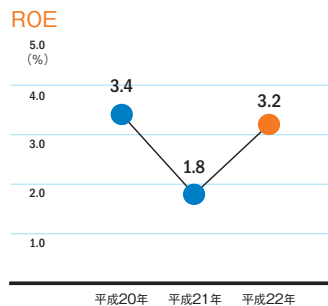
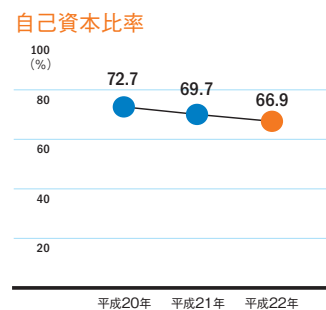
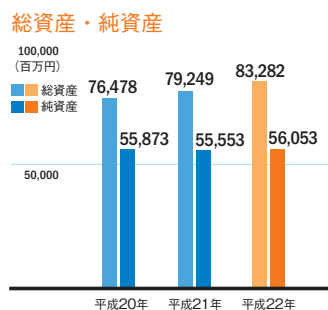
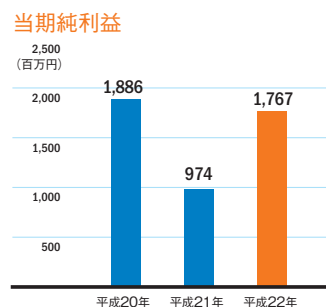
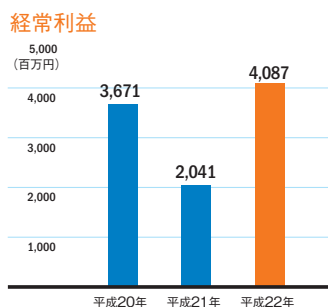
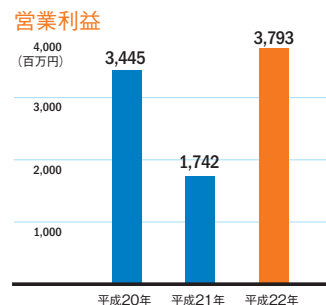
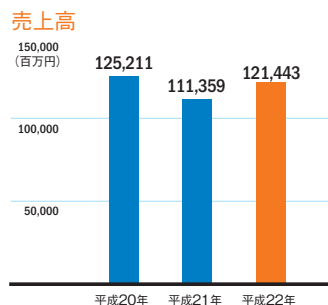
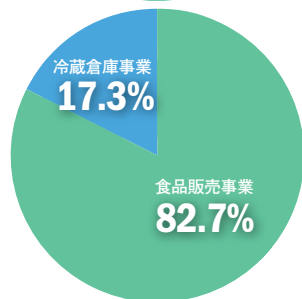
冷蔵倉庫事業は平均保管在庫量が減少となった影響から、保管料収入が伸びず減収減益となりましたが、食品販売事業においては堅調に販売数量を伸ばし、加えて当期より本格稼働した連結子会社の（株）アライアンスシーフーズの寄与もあり、当社グループの当連結会計年度の売上高は121,443百万円（前年同期比9.1%増）、営業利益3,793百万円（前年同期比117.7%増）、経常利益4,087百万円（前年同期比100.2%増）、投資有価証券売却損及び貸倒引当金繰入額並びに減損損失等の特別損失が690百万円あり、当期純利益は1,767百万円（前年同期比81.3%増）となりました。

事業別売上高

当期（平成22年9月期）
売上高合計
121,408百万円
(注) その他事業収入35百万円を除く



前期（平成21年9月期）
売上高合計
111,325百万円
(注) その他事業収入33百万円を除く



次期の見通し

今後の経済環境の見通しは、米国や中国を中心に海外景気の先行きに対する懸念や円高の進行、株価低迷などにより景気回復ペースは一段と鈍化する傾向にあります。また、内需低迷を主因とするデフレ圧力の影響や、雇用・所得環境の悪化懸念などにより個人消費は弱含みで推移するものと思われます。

当社グループでは、このような環境に対応し適切な事業展開を行い、企業価値を高め更に魅力的な企業となるために、平成20年10月からスタートしました第三次中期経営計画（3ヵ年）の目標達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

冷蔵倉庫事業につきましては、社員による物流オペレーションを通して物流品質の向上を図り、また、幅広い顧客ニーズに対応するためオーダーメイドサービスや設備のリニューアルを実施し、多彩な物流サービスの提案を積極的に推進します。併せて新設物流センターの早期軌道化及び収益向上につとめてまいります。

食品販売事業につきましては、引き続き原料の安定供給と安全性の提供を最重点課題と位置づけ、事業活動を展開してまいります。今後も更に、連結子会社を活用した原料サプライヤーとしての機能拡充につとめ、調達力の強化と販路拡大を図る一方で、マーケット及び在庫のリスク管理を強化し、業績伸展につとめてまいります。

次期の業績見通しにつきましては、

次期(平成23年9月期)連結業績予想

売上高	119,800百万円
営業利益	3,940百万円
経常利益	3,980百万円
当期純利益	1,830百万円
1株当たり当期純利益	35円36銭

を予想しています。

冷蔵倉庫事業

ネットワークを活かした物流一貫システムで、
多彩な物流サービスを積極展開しています

60有余年の経験に裏打ちされたノウハウを活かした保管業務、当社のネットワークを活かした配送サービス、輸出入をサポートする通関サービスを融合した「YLS」(ヨコレイ・ロジスティック・システム)に、デリバリーを円滑に行うITを活用した物流情報システム「YIS」(ワイズ)をプラスしたトータル物流サービスで、お客様のニーズに合った多彩な物流サービスを展開しています。



当期の業績

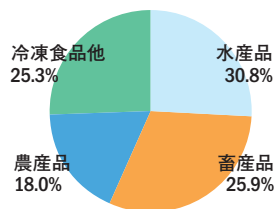
当期は、消費低迷や在庫調整を背景に荷動きが鈍い状態が継続し、この影響で業界全体の保管在庫量は減少傾向で推移しました。

このような環境下で、期初よりブロック体制を軸とした収益重視の集荷活動、作業効率改善等によるコスト削減に取り組んでまいりました。

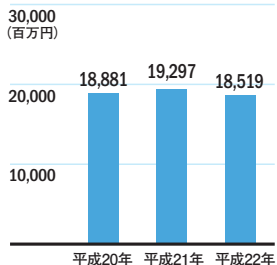
その結果、入庫取扱量は前年同期と比べ増加しましたが、平均保管在庫量は6.4%減少となり、前年同期と比べ減収減益となりました。営業利益率については、コスト削減効果もあり前年同期並みの水準を維持することができました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績につきましては、売上高は18,519百万円(前年同期比4.0%減)、営業利益は3,467百万円(前年同期比4.2%減)となりました。

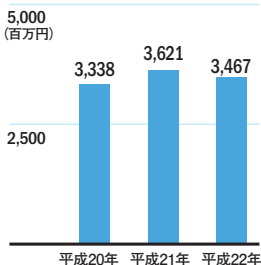
当期入庫量品目別割合



売上高



営業利益



食品販売事業

原料サプライヤーとしての機能を向上させ、
食卓に安心と美味しさを提供しています

仕入から販売までの一元管理を行うことで、マーケットが求める安心安全な水産・畜産・農産品を国内外から調達し、食品卸や食品メーカーなどへ販売することで皆さまに安心と美味しさを提供しています。このため、世界的な資源不足に対応する商品調達力を強化し、商材の確保につとめています。



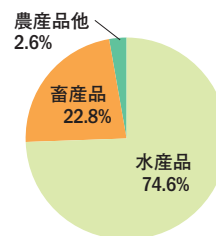
当期の業績

国内消費需要の低迷に加え、水産物及び畜肉相場が低水準で推移する販売環境下で、事業部制による徹底した在庫管理と利益率を重視した販売活動に取り組んだ結果、前年同期と比べ売上高は増収、営業利益は大幅な増益となりました。

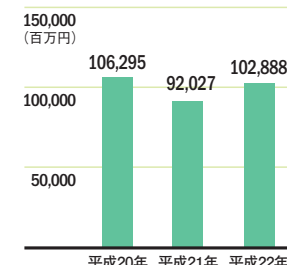
品目別では、水産品については、サケ、サバ、エビ、イカ等の主要品目を中心に取扱量を増加させ、また当期から本格稼働した(株)アライアンスシーフーズが寄与し、農産品は旭川営業所を中心とした販路拡大によりそれぞれ増収増益、畜産品は減収となりましたが利益率の改善により増益となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績につきましては、売上高は102,888百万円(前年同期比11.8%増)、営業利益は1,955百万円(前年同期は478百万円の営業損失)となりました。

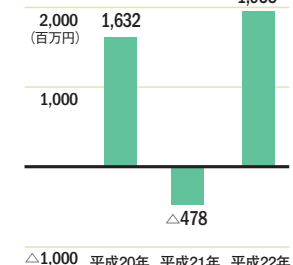
品目別売上高構成比



売上高



営業利益



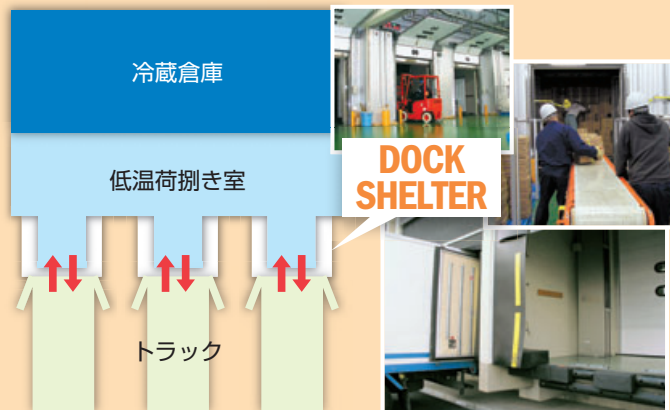
今後の低温物流ニーズに対応する「ワンノイ物流センター」を新設

タイヨコレイ（株）は、平成元年12月の設立以降、タイ国内において2工場（サムロン、バンパコン）を展開してまいりましたが、今後の低温物流ニーズに対応すべく、タイ中部のアユタヤ県ワンノイ郡に「ワンノイ物流センター」を新たに建設することといたしました。平成22年9月に着工し、平成23年9月の竣工を予定しています。

「ワンノイ物流センター」の建設地であるアユタヤ県は、鶏肉加工メーカーをはじめ、生鮮野菜や果実、乳製品メーカーが工場を構えるなど、タイ有数の食品加工拠点となっています。このため、かねてより営業用冷蔵倉庫建設の要望が高まっておりましたが、今回の「ワンノイ物流センター」建設はこうしたニーズに応えるものです。また、「ワンノイ物流センター」は、投資を通じた経済回復の促進、タイの国際競争力強化、地域発展の加速などの効果が認められ、タイ投資委員会（BOI）の投資奨励事業に認定されました。なお、「ワンノイ物流センター」が完成しますと、タイヨコレイ（株）の総庫腹量は4万5,000トンとなり、タイ国内総庫腹量の約10%を占める規模となります。

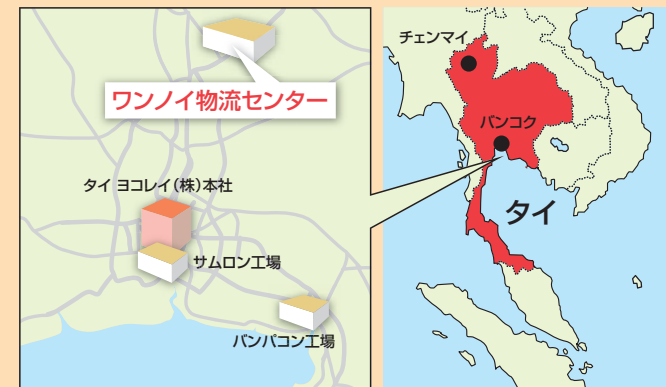
高い品質管理

ヨコレイ60余年の歴史で培ってきたノウハウに基づき、「ワンノイ物流センター」の設計から運営までを行います。施設は、当社が日本国内で展開している冷蔵倉庫と同様の設計と仕様を採用し、「ヨコレイ品質」の徹底を目指します。また、気密性を保ちトラックとつながるDOCK SHELTERにより、庫内荷捌き室やプラットホーム内を低温化することで、貨物にとって最適な状態での出入庫作業を行います。



高い利便性

新物流センターの建設地は、バンコクから北へ約70キロ、食品の加工拠点であるアユタヤ県とバンコクを結ぶ国道1号線に面し、物流拠点として最適なロケーションです。また、バンコクを基点に、東のバンパコン工場、南のサムロン工場、北の「ワンノイ物流センター」とバランスのよい拠点連携により、お客さまに高い利便性をご提供いたします。



安定収益の確保を目指し、多彩な物流サービスを展開する国内冷蔵倉庫事業

当社は、収益の柱となる冷蔵倉庫事業において、多彩な物流サービスの積極展開による安定収益の確保を目指しています。このため、顧客ニーズに合致した物流サービスと提案型の営業体制を構築し、ブロック体制を軸としたエリア戦略推進機能の強化に取り組んでいます。ブロック内での営業体制を集約し、営業力の強化を図るとともに、全社的な視点からエリア戦略を統括・推進すべく本部戦略機能の強化を図ってまいります。

トータル物流サービスの提供

エリア戦略に基づき、各ブロックに設置した基幹センターを軸にエリア管内配送体制を確立し、これをベースに全国配送サービスの構築を目指します。多彩な物流サービスを提供する観点から、通関及び運送サービスについては各ブロックに営業専任者を配置し、更なるサービス品質の向上に取り組んでまいります。また、保管サービスにおいては、顧客ニーズに合致したプロフェッショナルとしてのサービスを拡充してまいります。

投資によるヨコレイ品質の向上

経営効率・環境対策を勘案した設備のリニューアル及びスクラップ基準を明確にし、設備の高度化を計画的に推進し、ヨコレイ品質の向上につとめてまいります。

阪神エリアの強化を目指して「北港物流センター」を新設

当社は、阪神エリアの物流拠点として最高のロケーションを誇る阪神ベイエリア内、舞洲の物流ターミナルゾーンに「北港物流センター」（平成23年7月竣工予定・保管収容能力27,607t）を新設することといたしました。高度な品質管理を行うため、庫内荷捌き室やプラットホーム内を低温化するとともに、空気圧を外部よりも少し高くすることでホコリや暖気の侵入を防ぐ仕組みとなっています。また、当社で最大規模となる太陽光発電システムを設置するほか、冷媒に自然冷媒を採用するなど、環境にやさしい冷蔵倉庫を実現します。最適な保管環境を提供するため、荷物の保管に最適な天井ヘアピンコイル冷却方式を採用するとともに、荷物の特性に合わせた3温度帯の保管庫を完備いたします。



「(仮称)新鹿児島物流センター」を新設

当社は、日本有数の農産・畜産・水産品の生産基地である南九州の中心に位置する鹿児島市谷山港に「(仮称)新鹿児島物流センター」（平成23年8月竣工予定・保管収容能力20,641t）を新設することといたしました。天井ヘアピンコイル冷却方式や電動式移動ラック、気密性の高いドックシェルターと低温管理されたプラットホームを持ち、荷物の特性に合わせた温度設定が可能な県内最大級のチルドルームではオゾン殺菌脱臭装置、超音波加湿器、ロスナイ換気設備などで高い保管品質を提供します。また、消費電力の抑制、CO₂の削減、自然冷媒の採用など、環境にやさしい設計となっています。



連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	期別		科目	期別	
	第63期 平成22年9月30日現在	第62期 平成21年9月30日現在		第63期 平成22年9月30日現在	第62期 平成21年9月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	31,296	25,571	流動負債	19,571	14,819
固定資産	51,985	53,678	固定負債	7,657	8,876
有形固定資産	44,547	44,933	負債合計	27,228	23,695
無形固定資産	2,620	3,041	純資産の部		
投資その他の資産	4,817	5,703	株主資本	55,920	55,207
資産合計	83,282	79,249	資本金	11,065	11,065
			資本剰余金	11,109	11,109
			利益剰余金	34,264	33,532
			自己株式	△ 519	△ 500
			評価・換算差額等	△ 236	60
			その他有価証券評価差額金	△ 59	200
			繰延ヘッジ損益	△ 24	△ 1
			為替換算調整勘定	△ 152	△ 138
			少数株主持分	369	286
			純資産合計	56,053	55,553
			負債純資産合計	83,282	79,249

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	期別	
	第63期 平成21年10月1日から 平成22年9月30日まで	第62期 平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで
売上高	121,443	111,359
売上原価	110,912	104,010
売上総利益	10,531	7,348
販売費及び一般管理費	6,738	5,606
営業利益	3,793	1,742
営業外収益	520	498
営業外費用	226	199
経常利益	4,087	2,041
特別利益	93	93
特別損失	690	260
税金等調整前当期純利益	3,490	1,875
法人税、住民税及び事業税	1,650	721
法人税等調整額	12	153
少数株主利益	60	25
当期純利益	1,767	974

連結株主資本等変動計算書（平成21年10月1日から平成22年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本				評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成21年9月30日残高	11,065	11,109	33,532	△ 500	55,207	200	△ 1	△ 138	60	286	55,553
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 1,035		△ 1,035				—		△ 1,035
当期純利益			1,767		1,767				—		1,767
自己株式の取得				△ 18	△ 18				—		△ 18
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					—	△ 259	△ 22	△ 14	△ 296	83	△ 213
連結会計年度中の変動額合計	—	—	731	△ 18	712	△ 259	△ 22	△ 14	△ 296	83	499
平成22年9月30日残高	11,065	11,109	34,264	△ 519	55,920	△ 59	△ 24	△ 152	△ 236	369	56,053

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第63期	第62期
		平成21年10月1日から平成22年9月30日まで	平成20年10月1日から平成21年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,471	7,676
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,721	△ 4,910
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,880	254
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 3	△ 9
現金及び現金同等物の増減額		△ 1,316	3,011
現金及び現金同等物の期首残高		5,194	2,183
現金及び現金同等物の期末残高		3,877	5,194

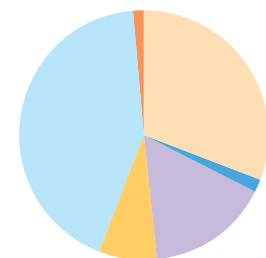
株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式の総数	52,450,969株
株主数	14,922名

大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	3,105	6.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,573	4.97
株式会社横浜銀行	2,176	4.21
農林中央金庫	1,473	2.85
株式会社八丁幸	1,411	2.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,161	2.24
シービーエヌワイディエフエイインターナショナルキャップバリューポートフォリオ	1,118	2.16
横浜冷凍従業員持株会	1,053	2.04
株式会社サカタのタネ	1,022	1.97
横浜振興株式会社	892	1.72

所有者別株式分布状況



(注) 持株比率は自己株式(700,810株)を控除して計算しております。

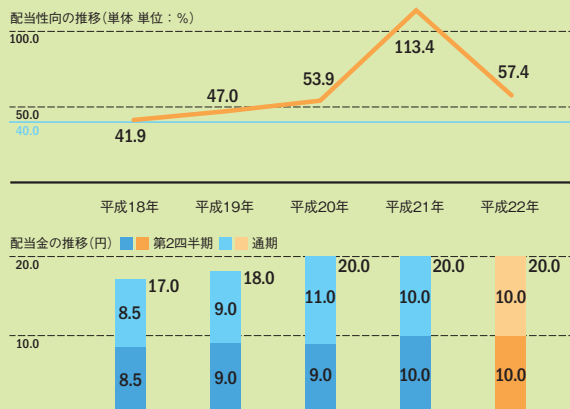
株主還元について

配当金・配当性向

ヨコレイでは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題の1つとして認識し、配当性向40%以上の維持を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

当期の期末配当金は、この方針に基づき、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。

※平成20年の期末配当金には、記念配当2円を含んでいます。



株主優待

1,000株～3,000株未満保有の株主さま



ヨコレイグループが手掛ける「うなぎ蒲焼詰め合わせ(5尾入)」

3,000株以上保有の株主さま



弊社取扱商品である北海道産「ホタテ・いくらセット」

ヨコレイくんが行く!
頑張るヨコレイ VOL.4



今回の
「ヨコレイくんが行く!」
はヨコレイの
モバイルサイトを
探検してきたよ!

「mobile YOKOREI」の 旅へ出発だ!

携帯電話が、様々なビジネスシーンで活躍しているけれど、ヨコレイでもモバイルサイトでの情報提供に力を入れているんだ。

携帯電話のカメラからQRコードを読み取って、

「mobile YOKOREI」探検の旅に出発だ。

トップページには、おなじみのヨコレイのロゴ。

「会社概要へ」をクリック。定番の会社名や代表者、資本金、本社所在地、事業内容などのデータはもちろん、ほぼリアルタイムで株価情報も提供しているぞ。株主の皆さまにはうれしいコンテンツだね。



「mobile YOKOREI」は こんなに便利なんだ

ヨコレイには、冷蔵倉庫事業と食品販売事業という二つの大きな柱があるけれど、それぞれの事業所一覧がスグレモノなんだ。住所や電話番号といった基本情報はあたりまえ。

物流センターについてはブロックごとに、収容能力や設備、グリーン経営など許認可情報も提供しているんだ。特筆ものは、詳細もチェックできる地図。クルマに乗って訪問するお客さまやドライバーにはとっても便利だよ。

食品販売事業の事業所一覧では、取扱い品目まで掲載されていて、商談にもひと役買っているんだ。



ここまでやる 「mobile YOKOREI」

もっと驚きなのが、主要産地ごとの水揚情報が入手できること。日本の主な漁港がリストアップされ、魚種ごとに水揚量や相場がたちどころにチェックできるんだ。旬の食材を扱うヨコレイならではの「旬」な情報提供だ。情報が武器の営業マンにとって、強い味方だぞ。

それだけじゃない、採用情報も便利なんだ。新卒採用については、「就職情報サイト」と連携していて、エントリーまでできちゃうぞ。

ヨコレイのモバイルサイトは、一度つくったら終わりというわけではないんだ。ビジネスが日々進化するように、モバイルサイトも進化している。こまめにチェックして、「旬」のヨコレイを感じてほしいものだ。

一步先を見つめた
情報提供につとめてこそ、
便利に使えるサイトになるんだね。次回も
楽しみにね。



会社概要 (平成22年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社
 本社所在地 〒220-0022
 横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階
 TEL：045-326-1010(代表) FAX：045-326-1145

設立 昭和23年5月13日
 資本金 11,065,926,625円
 従業員数 960名

業務内容
 1.冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
 2.水産品の加工、販売並びに輸出入
 3.農畜産物の加工、販売並びに輸出入
 4.不動産賃貸業
 5.通関業
 6.貨物運送取扱事業並びに貨物自動車運送事業
 7.食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
 8.その他前各号に付帯関連する一切の事業
 (定款における事業目的)

役員及び執行役員 (平成22年12月21日現在)

代表取締役社長	吉川俊雄
専務取締役	小林健次
取締役 常務執行役員	水野隆明
取締役 常務執行役員	岩淵文雄
取締役 常務執行役員	中西啓文
取締役 執行役員	飯島敏正
取締役 執行役員	西山敏彦
取締役 執行役員	大久保孝一
取締役 執行役員	井上祐司
常勤監査役	吉橋伊知男
常勤監査役	平野順三
監査役(独立)	棚橋栄蔵
監査役	西元徹也
執行役員	笹崎等
執行役員	安達徹
執行役員	岩倉正人
執行役員	越智孝次
執行役員	畑山敬二
執行役員	千田重賢
執行役員	竹村文男

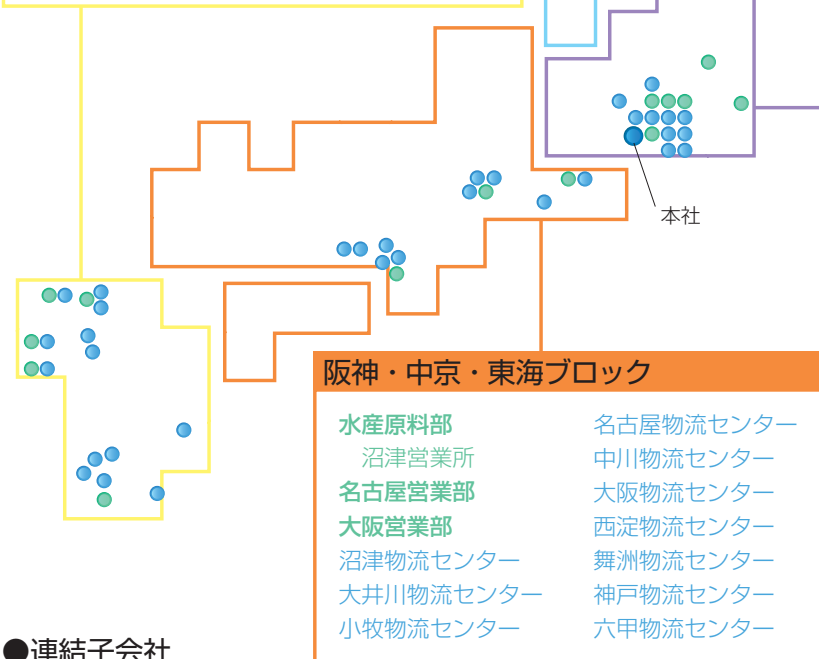
ネットワーク (平成22年9月30日現在)

- 冷蔵倉庫事業
- 食品販売事業

■バンコク駐在員事務所

九州ブロック

九州水産事業部	唐津冷凍工場
九州水産事業部(福岡)	長崎冷凍工場
長崎営業所	佐世保冷凍工場
鹿児島営業所	都城物流センター
佐世保営業所	志布志物流センター
唐津分室	鹿児島物流センター
福岡物流センター	川辺物流センター
箱崎物流センター	枕崎冷凍工場
鳥栖物流センター	山川冷凍工場
鳥栖第二物流センター	



●連結子会社

- 株式会社セイワフード(※)
- 株式会社アライアンスシーフーズ
- タイヨコレイ株式会社

※(株)セイワフードは、平成22年12月1日より、(株)クローバートレーディングに社名変更いたしました。

北海道・東北ブロック

北海道水産事業部
 北海道水産事業部(札幌)

東北水産事業部
 東北水産事業部(仙台)
 八戸営業所
 気仙沼営業所

農産事業部
 旭川営業所
 十勝営業所
 留寿都分室

十勝物流センター
 十勝第二物流センター
 石狩物流センター
 八戸物流センター
 気仙沼冷凍工場
 仙台物流センター

関東ブロック

水産原料部
 水産原料部(東京)
 茨城営業所
 銚子営業所

畜産事業部
 東京営業部
 横浜営業部

加須物流センター
 加須第二物流センター
 鶴ヶ島物流センター
 東京物流センター
 東京第二物流センター
 大黒物流センター
 横浜物流センター
 子安物流センター
 山内物流センター
 伊勢原物流センター

株主メモ

事業年度 10月1日より翌年9月30日まで

定時株主総会 12月

基準日 定時株主総会の議決権 9月30日

剰余金の期末配当 9月30日

剰余金の中間配当 3月31日

その他必要があるときは、あらかじめ公告した日

公告の方法 電子公告

※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。

<http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/>

単元株式数 100株

上場取引所 東京証券取引所(第1部)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話:0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2874

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

ホームページのご紹介

<http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。

また、環境方針やグリーン経営などの環境への取り組みをご紹介します。

ヨコレイでは、今後も更にわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

